

故郷の人物を知ろう

おん こ ち しん

たかおか

# 温故知新

しもはつかさがの  
下八ヶ佐加野用水を開いた

ひょうくろう  
安藤兵九郎 (1643~1708)

兵九郎は射水郡大白石村(現射水市／旧下村)の十  
村・石川又太郎の次男として生まれ、母の実家である砺  
波郡宮丸村(現砺波市)の十村安藤家の分家・次郎四郎  
の養子となりました。父は1655年加賀藩の許可を得て、  
小矢部川左岸(国吉～二上村辺り)に残された荒れ地の  
開墾に取り組んでいました。成長した兵九郎は父を助けて  
懸命に働き、1660年には600数十石もの土地を開墾  
しました。しかし、日照りが続き干ばつとなり、農民の生  
活苦は深刻となりました。

1662年、兵九郎は父の名代となり、この地に用水を開  
くことを決意します。1673年、兵九郎は二上村に移住  
(1681年に下八ヶ新村に移転)して、五十里村の十村・高

島庄助、内島村の十村・五十嵐孫六  
らの協力を得て地勢や水脈などを  
詳細に調査しました。そして、小矢  
部川左岸の現福岡町三日市で取水  
し、二上地区まで約14kmの下八ヶ  
用水と四日市で分岐する佐加野用  
水を開く計画を立て、藩の認可を得  
ました。途中、用水はサイフォン  
(高低差と水圧により川の下に水路を通す技術)により  
広谷川(2ヶ所)と頭川(1ヶ所)の下を潜っています。兵  
九郎は全財産を投げうって約500人の農民を動員し、工  
事を指揮監督しました。藩からも金沢の笠舞町から百姓  
15人の派遣や銀・材木が下付されました。

そして16年後の1689年工事は完了し、423haの水田  
に絶えず水が行きわたるようになりました。用水開通前  
の約4～5倍もの米が取れたといわれ、現在でもこの地  
域のお米はブランド米として有名です。 (仁ヶ竹主幹)

問合先 博物館 TEL 20-1572



安藤兵九郎君遺徳碑  
(二上公民館前)